

2020年1月26日実施 2級FP技能検定試験（学科、実技：資産設計提案業務）について

<学科試験>

■出題傾向

過去問と類似した基本的な問題が中心だった。なお、『ライフプランニングと資金計画』について、社会保険関連分野以外の出題が5問と多かった。また、『リスク管理』についても、生命保険分野（第三分野の保険を含む）から5問、損害保険分野から5問の出題であり、従来よりも損害保険分野からの出題が多かった。

■問題のレベル

選択肢の一部に細かな言い回しや判断に迷う語句が散見されたが、全体としては基礎知識を問うような問題が多く、総じていえば従来と同レベルといえる。

■特記事項

問題10の「貸借対照表」を見て指標を計算する問題は、通常問われない項目が含まれており、難しかったといえる。

また、問題60の「民法上の遺言」について、2019年1月13日に施行された自筆証書遺言に関する改正事項（財産目録の自書の不要）が出題された。

<実技試験>

■出題傾向

過去に出題された問題の類似問題が多く、出題傾向に大きな変化はない。

■問題のレベル

見慣れない問題も散見されたが、どの科目においても基本的な知識を問う問題が多く、従来と同レベルといえる。

■特記事項

問8の「不動産取引に係る消費税」は、過去の傾向と異なる問題である。ただし、すべての空欄がわからなくても消去法で正解を導くことはできる。

また、問21の「直系尊属から住宅取得等資金の贈与を受けた場合の贈与税の非課税」については、床面積の要件や消費税等の税率10%適用時の省エネ等住宅の非課税限度額など、やや詳細な知識が問われている。

<総括>

学科試験は、どの科目も従来から問われていることが出題されているので、過去問を中心とした対策を行ってきた受検生にとっては得点しやすい内容だったと思われる。

実技試験は、過去の傾向と異なる問題（問2の「特定商取引法におけるクーリング・オフ制度」、問8の「不動産取引に係る消費税」など）はあるものの、定番と思われる問題に対する準備ができていれば、十分合格点に到達できると思われる。

学科試験・実技試験のいずれも合格に向けては時間配分も重要な要素となるので、時間を計って過去問や模試を解くなど、本番を想定した対策が重要である。

※このシートは、2020年1月26日に実施された試験を、山田コンサルティンググループが独自に分析し総括したものです。あらかじめご了承ください。